

文書課

同課

文書課

明治三十二年七月九日 起草
同日 八月廿八日 發遣

主任

總務長官

政務局
通商局
會計課

人事課

送達

外務省

明治三十二年七月廿八日

林正使宛

東京鐵道線改築工事之件

ニ付

外務省

東京鐵道線工事ノ件、乃チ京城及ニ釜山方面ニ入
込タル本邦労働者名目若クハ對外人労働
ホニ及ビテ在籍ノ必要上同鐵道會社ヨリ同社
ノ經費ヲ以テ前記地方ニ特別調査隊ヲ遣
換同會社ニ課示若クハ命令方ノ累々ニ付去ル
五月廿六日付奉示七口ノ書信ヲ以テ中越
ニ趣煩承本件ニ及ビテハ左ノ事山幸ニ候事
ヨリ重々徒、以テ其有之且同候事ノ意見ニ付

法利銀行可、多額トシテ命令以テ之信ヲ
爲友、信給及月子者、金額トシテ同會社ハ
之カ目ヲ撥ラ辭セザルニト、事ニ有テハ其
以テ同銀行會社重役屋敷之長ガ、出者
之部ニ其業意、点ヲ申シ同カセ其係同會社
ニ於テ者ホ其用ヲ更撥シテ其山名面
一該利銀行並ニ義ノ契ニ本者、別書可
以出換據之及至決、少交同會社、同會社、經

外務省

費上困難ナル事、且ツ若シ法利銀行並
立、持合ニ出者一名ニ年一ヶ月約三ヶ月費
用ヲ要シ恒東同會社ニ於テ勤務セル者トシ
撥衛上者金額、支給ニ出者並升、台ヲ中述
一編ニ其業意、谷山古頃事、改時出者中
ヨリ者二名、出者並升、方然、別書、升、右
屋敷ガ、係、係、不、係、理由、素、ヨリ
要、願、可、以、モ、二、三、年、之、業、意、以、升、要、之、同

總領事館に於ては、
支領事館に於ては、
付同領事館に事務、
査中人並、上各二名、
内之に、同領事館、
査中系者、
査中系者、
査中系者、

非常員並、
非常員並、
非常員並、
非常員並、

外務省

於ては、
於ては、
於ては、
於ては、

大藏省

明治廿六年七月九日

同發遣

同發遣

明治廿六年七月九日 起草
同 年 八月廿八日發遣

主任

總長官

人事課長

通商局
會計課

小村大臣

三増領事

東京鉄道總路

平

外務省

東京鉄道總路 配

林 駐 公 使

東京 鐵 道

東京 鐵 道

東京 鐵 道

東京 鐵 道

東京 鐵 道

東京 鐵 道

1-1606

Handwritten marginal notes on the left side of the page.

Handwritten marginal notes on the right side of the page.

旨
派遣
新設費事務

於經費費事務
巡査
費寄
會

社
負
任
先
務
務

旨
陸
海
軍
進
出

外務省

高永孝之

永井榮吉

中村雪造

外務省

1-1606

文書録

徳

明治六年七月廿三日

文書録

五五七

明治六年七月九日 起草
同日共八日 發遣

島田

正務局長 主任

島田

島田

島田

小村外務大臣

送附

部系領事宛

東京銀行送附函之駐留セシムハキ法政

三件ニツキ去ル五月廿日付

二十六

外務省

東京銀行送附函之駐留セシムハキ法政
 三件ニツキ去ル五月廿日付
 法政評不々頃トシテ取合ハルニ依テハ
 右ノ條及月多由ノ金額トシテ東京銀行送附
 之カ頁換テ辭セサルニ云々ノ事見テ
 以テ越テ取合承固ク日會社重役
 或ハ出者ヲ取テ出集意ノ事ヲ申シ
 日會社ノ取テ右ノ事ヲ取テ
 日會社ノ取テ右ノ事ヲ取テ

寫

電受第四三二號

昭和六年七月廿九日午後七時三十分着

小村外務大臣

在韓

林公使

第貳百貳拾五號

(前略)

右之事、以後暫く我總領事官、保護ヲあるに付キ、三
増領事官申立、以テ巡査隊遣ハ取計トシ、本領事官
又右之事、急遽ニ成就セシムルニ必要アルニ付キ、會社ニ
於テ自然次々金不足ノ爲メ延期セシメサル様會社中
段ハ法勸誘ヲ請フ

(原書、韓國鐵道、關ルル件、第一、(釜山、山、石、三) 中、三、三)

外務省

田...

吉...

田...

明治廿六年七月廿四日

警務人...

公才一二一七

一〇一四二

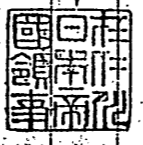
京釜鐵道線路：常駐巡查
酒方酒可常法、件

京釜鐵道工事進捗之速有之、隨之、旬日、
本邦人、目下、京釜鐵道振成附近、忠法
道、鐵道、之、四、按、六、埋、間、敷、在、日、韓、人
同、勤、之、之、諸、種、間、係、之、惹、起、米、存、之、右
保、波、并、而、持、之、作、之、必、要、之、感、之、平、澤
天、安、之、二、之、常、駐、巡、查、之、名、宛、酒、之、所
日、鉄、道、會、社、京、城、支、店、常、務、所、係、任、代、理
江、南、振、興、之、就、出、之、尤、之、其、務、余、及、車、務
所、其、間、日、會、社、之、員、担、下、之、務、之、台、右、左、
在、韓、國、仁、川、港、日、本、領、事、館

明治二十六年七月廿四日

在、行

領事館長 中野



外務大臣 野村 浩平 敬啟

大臣

電信課長

Handwritten signature

總務長官

Handwritten mark

通商局

主管

Handwritten signature

電受第 四〇四

號

明治 廿六年 七月 十五日

日午 六時 五分

發着

小村外務大臣

林公使

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

外務省

及 (要旨付)

1-1606

明治 年 月 日
同 年 月 日
起草
發遣

珍田

事務主任

主任

事務

電長

通商局

電送第三三三號

左部
林少使

少部

中電中二百二号
於山ハ派送スハヤ

外務省

田電七五

1-1606

總務長官

第444號

明治廿六年八月三日

官署通函

會計課

16

鐵道部第一五〇号
京釜鐵道工部局
左之角林公使
報告申進候
敬具
明治二十六年七月二十一日

五卷山

在朝鮮國釜山日本領事館



朝鮮國釜山日本領事館

在朝鮮國釜山日本領事館

1-1606

一 巡査ノ任ニ至ル者、修養ノ旨、自巡査四名、新
 角館付シ命セシ候、其旨着任付待テ、敢有
 一名、巡査ニ着任来ニ浪津ニ駐在スル巡査
 一名、移テ隱居ニ駐在セシ、豫定、有之者
 之ノ、進捗ニ係テ、巡査駐在ノ其要地ニ移轉
 致度、存居候、尤モ、庄山方面工区、全体ニ至
 一兩名、巡査ヲ巡査スル際、於テ遺憾不
 二、其目、南、北、付巡査ノ定員、結ル
 三、配置、外、給、給、給、有之者、
 四、鉄道沿線地ニ配置スル者、乃至十九名、
 五、巡査、南、北、付、増員、至、工、可、進、行、
 六、状況、應、テ、巡査、配置、スル、工、可、進、行、
 七、知、人、保護、可、作、工、可、進、行、遺憾、ナ、
 八、在朝鮮國釜山日本領事館
 九、一、巡査、區、候、修、養、又、右、巡査、人員、一、テ、而、數、名、
 十、佳、合、駐、在、スル、コト、モ、一、テ、而、一、名、在、シ、
 十一、其、駐、在、スル、數、ヲ、増、設、スル、方、案、際、テ、
 十二、其、駐、在、スル、遠、慮、自、存、候、
 十三、一、工、事、全、部、竣工、上、一、庄、山、方、面、
 十四、左、ニ、シ、テ、亦、一、修、養、友、駐、在、ス、
 十五、要、シ、認、メ、候、
 一、大、印、
 十六、印、了、意、ノ、旨、大、印、一、庄、山、方、面、沿、線、地、中、
 十七、重、要、ノ、部、會、有、之、鐵、道、工、事、
 十八、步、進、ス、ル、目、下、在、本、知、人、
 十九、名、由、心、に、お、達、候、付、其、保、護、取、締、
 二十、不、敢、巡、査、一、名、駐、在、ス、工、事、進、捗、

後其教ヲ増テ三名トシ為警部一名ヲ撰前
 該島ヲ移テ回駐在トテ詰テ命シ一警部
 島ニ於テ目下警部一名巡査三名駐在ス
 子如單純且閑散ナルヲ以テ其來警部
 ノ派遣ヲ具合シ單ニ巡査部長一名巡
 査二名ノミシニ事ヲ察降有テ又其具區一其
 附此ニ發生スル警部子如月臨檢敏活
 處置ニ出テシムル外又回地方面ニ駐在
 元巡査ノ指揮監督ニ當ラシムル必要ヲ認
 既ニ本年五月廿六日付ヲ以テ右卑見外務
 大臣ノ稟申致至候爾來事ヲ回訓ニ不接
 候旨無違テ何令ノ該議ヲ存候
 三 浪津

在朝鮮國釜山日本領事館

回地 沿東江本支ニ流、右之ルニシテ南港
 貿易上ニ密接ノ系ヲ有シ特ニ回地馬山
 浦間鐵道敷設ノ計畫ニ有テ其日京釜
 鐵道諸工ノ上ニ巡査二名駐在ス
 三 釜山

釜山ニ釜山方面ノ線定停車場下在地下
 右記兩ルニ次テ重要ノ場下ニ有テ高臺上
 有テ其地ニシテ本邦人ノ來往居住者將來
 増加ノ具區ニ付區テ鐵道該工ノ上ニ巡査二名
 駐在ス又警部有テ存候
 工夫百餘ニ付テハ一着ニ其雇員ニ鐵道會社
 及工事請負人ノ側ニ於テ有力ナル方法ヲ設テ其
 効告致居候旨兵部一ニ察察工夫トシテ付兩見者

1-1606

却テ喜ハシク修マラス租界ノ是ニ多クコトカニ工夫ノ
 貸銭ハ通常ノ産主ヨリ之ヲ取ルルノ慣例ニ依ルルヲ以テ
 解産又ハ貸銭ノ重キ押トシテ其ノ制裁ハ工夫ニ於テ
 著キ痛痒ヲ感セムコトヲ得ノ不_レ可_レク鐵道會
 社ノエテ申請員ノ側ニ於テ十分ノ可_レ得_レ方法
 シ致ルルニ到底困難ヲ免ルル趣ニ有_レ之因ヨリ工夫
 ノ界ハ二界ニシテ其_レ新_レ方_レ産主ニ於テ巨額ノ失費
 シ生_レシ義ニ付産主ノ利益上ヨリスルモ乃_レ限_レ工夫
 可_レ得_レニ注意致_レ居_レル其_レ結果ニ於テ公力ニ依
 ンテ可_レ得_レヲ勵_レハスニ非_レシ満足_レル結果ヲ期_レシ難_レ
 希_レ以_レテ巡查増員ノ必要ヲ認_レス次_レ候_レ候
 敬_レ申_レ進_レ候_レ敬_レ具_レ

大正三十四年七月二十五日

在朝鮮國釜山日本領事館

立_レ在_レ

領事 鈴木 重_三

特命全權公使 林 權助 啟

1-1606

明治 年 月 日
同 年 月 日
起草
發遣

主任

小幡 林 使

(系)

外務省

（系）
中ノ書ニテ百ノ部ニ至リテ其ノ終ニ在リテ
ノ事名ニ付テ一甲名ニ在リテ一ノ派ニ在リ
トシテ其ノ事ニ其ノ條ノ事ニ至リテ其ノ事
京ノ事名ニ付テ一甲名ニ在リテ一ノ派ニ在リ
西ノ事名ニ付テ一甲名ニ在リテ一ノ派ニ在リ
貴方ノ事名ニ付テ一甲名ニ在リテ一ノ派ニ在リ
貴方ノ事名ニ付テ一甲名ニ在リテ一ノ派ニ在リ

1-1606

明治廿六年八月七日
同 年 月 日
起草 發遣

電送第三三號
明治廿六年八月七日
發

16 (要旨付)

總務長官 珍田

會計課 少

主任

電信課

人事課長 柳

電信案

小村大臣

林正使

林正使

本署

本署電報以下に於て多量に中絶する者あり

外務省

内五名に仁川四名に釜山トアリニカ仁川

ハニヤ城ノ誤ナルヤ回電ナリ

1-1606

大臣

總務長官

田

電信課長

主管

Handwritten signature

電受第四四二

號

明治六年七月

日午九時一分

發

小村海軍大臣

事務 林公使

才者廿四號

貴電英百於七號ニ係ル仁川トモシハ

スリゲンテンアハ仁川領事トモシハ

為ニナリ便宜ニ為シテ京城ニ出張セラルル

海軍大臣ヨシ

外務省

16

1-1606

通商手続
普通商標
會計課
16
附

機密第一二八號

人事課

鐵道線路要地に巡査駐在所設置件

本件に關し初文第一二〇二号電案に於て、
駐在所に設置の地位に付て關係領事官意見の
徴し、猶考察あり加へ、其結果結局目下之に設置
の要スル地ハ

釜山側 三浪津

京城側 水原 燕岐

三個所より適當ト思考し、茲釜山方面ニ線路工事
ノ伸長京城方面ニ此ノ短少ナルハ故ニ當分ノ處ニ
浪津ノ一箇所ニ充分ニ可有之、又京城方面ニ於テハ
水原ニハ其具設置の要スベシ、其ヨリ南方ニ
事頗ル進ムルハ、尚一箇所ノ選定スル要アリ

在韓國日本公使館

リ之レハ燕岐ノ地理上尤モ適當ト被テ得共目下ノ
要工夫ノ入込ハ天安地方最多數ナルハ、燕岐
ノ駐在所ノ當分暫付天安ニ假設設置、本年未
ニ至リテ燕岐ニ移ストシテ設置スル可然ト考
ス、仍チ右ノ仰リ申談議ノ上設置ノ義決定
成テ電報ヲ以テ申訓示被成、此ハ及稟
申候致具

明治三十九年七月廿下

在韓

特命全權公使林權

外務大臣野村吉三郎

追而本文駐在所家屋ノ建設費用ニシテ若シ本省
ノ支出方困難有之ハ、協合ハ京釜鐵道會

總務長官

機密第一二八號

1-1606

社、協議ノ上、同會社ノシテ右費用ノ負担セシム
事出来可付ト存案ニ付念、派遣ノ議、確定後、交
付者、右家屋建築、今社ニ協議、決去、必、安、有
各併、而、可、申、故、本、第、一、

在韓國日本公使館

1-1606

朝鮮三千里日記

左巻下

領事館子



朝鮮三千里日記

在朝鮮國金台本領事館

1-1606

文書課長

明治卅六年八月廿二日接受

82

明治卅六年八月廿二日起草
同日發遣

政務局

會計課

人書課長

主任

通商

少輔

林三使宛

高尾鐵道線改保復の調査

調査の旨を件

外務省

高尾鐵道線改保復の旨を件
 九名調査ノ案ニツキ才二万二千号ノ電ヲ以テ
 少下試ニ該線取固テ大尾省ト協議ニ由テ
 該案裁可ヲ經テ之ヲ年發案友九名増員以
 該費用ニ才二條付金ヲ支出スル事ヲ成ル
 就ニ才二万五千号電報ヲ以テ京林山方
 西一畿名ツ調査ノ旨ハハルヤ同旨ヲ
 才二万二千号ノ電ニ由テ才二万五千号ノ電ニ由テ

1-1606

文書課長

明治三十三年八月十九日

明治三十三年八月十九日 起草
同日發遣

會計課長

豫算決算掛主任

通商局長

検査掛

支出掛

人事課長

車庫長

小村

常原 領事殿 小村の務書

東京鐵道保路の願書を以て

請願書を呈上し、其の旨を御覽願ひ候

外務省

東京鐵道保路の願書を以て

請願書を呈上し、其の旨を御覽願ひ候

請願書を呈上し、其の旨を御覽願ひ候

請願書を呈上し、其の旨を御覽願ひ候

請願書を呈上し、其の旨を御覽願ひ候

請願書を呈上し、其の旨を御覽願ひ候

請願書を呈上し、其の旨を御覽願ひ候

請願書を呈上し、其の旨を御覽願ひ候

文書課長

出長野候より

此の如く申上り候に付、

旅費の支給に付、

其の如く申上り候に付、

其の如く申上り候に付、

其の如く申上り候に付、

其の如く申上り候に付、

其の如く申上り候に付、

外務省

1-1606

在朝鮮國日本領事館

公第一四九号

三浪河駐在所送交文代件
高久也老日向所送文代件
向之出書
明治三十二年九月

在釜山

領事館印

外務大臣野村青木村長

三十六年九月廿八日記録受

在朝鮮國日本領事館

公第一四九号

三浪河駐在所送交文代件
高久也老日向所送文代件
向之出書
明治三十二年九月

在釜山

領事館印

外務大臣野村青木村長

1-1606

外務省
目録付
明治三十一年九月十日
21
浄書
原

明治三十一年九月十日
同 年 月 日
起草
日發遣

主任

總務長官
人事課長
切

外務省
支那事務課
支那事務課長

支那事務課長

支那事務課長

支那事務課長

外務省

支那事務課長

支那事務課長

支那事務課長

支那事務課長

支那事務課長

支那事務課長

支那事務課長

支那事務課長

1-1606

三回領事館より史の便に可外務省に存
此由因各書中在致也

外務省

1-1606

所新設之我庄由福支成、村名は左
 日取石所、係、取石所、傍、其、他、諸、行、爲、
 重、重、身、通、工、事、口、地、之、進、行、セ、
 此、之、京、之、後、進、之、三、社、奉、
 不、居、今、日、之、多、同、會、社、カ、
 新、成、下、之、乃、先、之、者、
 支、給、之、外、之、方、右、之、
 之、承、認、上、之、取、石、所、
 之、後、之、即、之、塔、新、之、
 之、事、之、之、之、之、
 明治三十四年九月十二日

在朝鮮國金山日本領事館

右等事

領事官 吉野 謙吉



外務大臣 野村 嘉平次 殿

1-1606

文書課長

明治卅六年九月廿九日接収

格書課長

明治卅六年九月廿九日起草
同年九月廿九日發遣

主任

會計課

人事課長

通商局



送第一三四號

立派山

部中少領事手札

駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

迄大邱一駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

外務省

駐在所請出書

駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

駐在馬尼拉領事官友減員並之度為

1-1606

本邦駐留所設置、件之付、東京鐵道工事

大邱、進河、曉、一切、其費用、同會社、役員

扱セシメント、由東京、大阪、工事、進

扱セサル、故、以、三、河、本、局、付、也、同友、費、支、給、本、邦

屋、台、市、中、城、之、本、邦、經、費、都、会、局、之、往

議、議、院、政、務、大、元、是、迄、同、會、社、三、河、本、局、付、也、本、邦

本、邦、駐、留、所、本、邦、駐、留、所、本、邦、駐、留、所、

本、邦、駐、留、所、本、邦、駐、留、所、本、邦、駐、留、所、

外務省

本、邦、駐、留、所、本、邦、駐、留、所、本、邦、駐、留、所、

本、邦、駐、留、所、本、邦、駐、留、所、本、邦、駐、留、所、

1-1606

右ノ後考一紙也

明治二十九年十月六日

在東京

信事 三橋久米



外務大臣野村吉三郎

出発月日

駐留所在地

駐留者氏名

九月廿六日

平澤

竹迫直太郎

”

”

朝妻忠平

”

鳥渡院

丹羽賢太郎

九月廿九日

水原

大川十右衛門

”

”

田賀佐太郎

在朝鮮 慶京城日本領事館

右

1-1606

自願... 會計課... 武田

公署一六八号

廣島市道大印、出之...

廣島市道大印、出之... 廣島市道大印、出之... 廣島市道大印、出之...

明治二十二年十月五日

左記

在朝鮮國金山日本領事館

領事...



外務省...

1-1606

今海防

宣統元年十一月十一日

管會訓

同録

會第九七号

第一四五二一號

回

回

東洋鐵道線路駐留巡查員

東洋鐵道線路、駐留巡查員の申す如く、四名流
 通ノ係、同、自、廿七、日、迄、一、四、九、号、ノ、迄、
 中、所、以、候、本、所、に、在、在、九、月、下、半、
 一、四、九、号、一、四、九、号、ノ、及、相、手、署、下、道、
 大、之、係、也、也、ヲ、有、以、駐、留、高、之、也、也、
 三、浪、津、駐、留、所、後、ト、シ、院、ノ、流、通、
 右、亦、也、其、日、在、駐、留、所、ト、シ、
 亦、也、自、之、日、一、七、日、ノ、以、
 向、道、三、浪、津、駐、留、所、ト、シ、川、上、
 亦、也、流、通、三、浪、津、駐、留、所、ト、シ、
 在朝鮮國金山日本領事館

濟、江、右、四名、并、ん、侍、給、也、若、及、
 其、林、也、在、民、院、所、在、所、也、
 右、駐、留、所、に、付、林、之、使、
 亦、也、永、久、四名、也、也、三、浪、津、駐、留、所、
 主、我、母、也、也、右、四名、也、地、駐、留、
 後、駐、留、所、ヲ、本、橋、ト、シ、
 出、張、也、也、
 亦、也、二、年、現、場、或、部、分、三、浪、津、
 コト、上、道、同、駐、留、所、本、橋、ト、シ、
 二、年、現、場、也、地、出、張、也、也、
 亦、也、二、年、現、場、也、也、
 一、年、駐、留、所、人、員、増、加、ス、ル、
 教、増、加、シ、一、日、也、也、

1-1606

アルトキニ其ノ中最近ノ驛百所ニ討フルコトヲ得セシ
 ムルカホテ其ノ事長ノ故治ヲ同ハテテ便蓋
 多カレバキニ其ノ浪津驛百所ノ常設驛百
 所トシテ之ヲ保衛シ四名ノ地老ハ在在ノ上曰
 驛百所法トシテ其地ノ事進め、後トノ事
 現地ノ事地ニ討テ驛百所ヲ設テ左四名ノ中
 一ノ我部分ヲ其ノ地ノ所置置スルコトニセバ一方
 ノ主系ヲ得キ他ノ一方ヲ其ノ交際ノ出限ノ
 制ニ伴フ旅費ノ増加其地ノ不便ヲ避ク是
 ノキ名林ノ便ノ事其ノ結果曰ク其ノ所
 謂フ法ヲ川上地老ヲ院石ノ付驛百所
 石系地老ヲ楢川ノ付驛百所法多合シ

在朝鮮國釜山日本領事館

目下二名若クハ地、驛百所法、又大却驛百所
 法、其ノ法ハ、其ノ地老ノ付コト一ノ九、其ノ法
 以テ其ノ地老ノ通、福山地老ノ付所
 法ヲ合シ、其ノ地老ノ付所、其ノ地老ノ付所
 法、其ノ地老ノ付所、其ノ地老ノ付所

明治二十二年十一月廿六日

左ノ山

於其ノ部下其ノ事



外務大臣男爵大村東郷殿

道馬 會社 受

明治廿七年二月一日 接受

公信第一一號

受第一二九五七號

天安巡査駐留所新設ニ関スル件

經年申領官轄、爾來ハ市街擴張、道路
迂曲ニ於テ水原、平津、鳥取院、三ヶ所
巡査駐留所ヲ設ケ水原一名平津及鳥
取院ニ各二名、巡査ヲ配置改テ申領官
ノ水原ニ一、別車運轉用檢セラレ且ツ
平津ニ一、運下ナリ經テ城
外地ニ申領官城下檢急ニ檢シ得ル、都左ト
表取付檢ニ平津ヲ檢シ、南ノ約十三哩ニ位
スル天安附近ニ人馬一、檢ニ檢シ、且ツ都左
子賊細細シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々

檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
檢ニ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々

在 市 城 館 中 三 百 之 第 五 號

村橋 大 臣 男 爵 村 橋 大 郎 殿

申テ申領官ノ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
毛檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々
設備ノ檢シ、檢々ニ檢シ、檢況ニ檢シ、檢々

1-1606

大臣

電信課長

次官

主管

電受第百三三

號

明治三十七年二月廿二日午後一時四十分

發

小村外務大臣

三城

三増領事

第三十三号 (玉急)

永登浦巡查駐留所ニ從來一名、此查ヲ駐留セシメ居ル事

外務省

此係取締上更一名ヲ増加スル必要アルニ付キ有電信ノ以テ玉急御許可ヲ乞フ

1-1606

在朝鮮國釜山日本領事館

廣南道仁同郡倭館駐在

山本見玉澤之丞

全羅道全泉郡駐在

山本和用春之丞

全羅道黃洞郡黃洞駐在

山本植野作之丞

1-1606

新下

大臣

電信課長

Handwritten signature

電信課長

次官

主管

Handwritten signature

電受第一一〇八

號 明治三十七年五月二十二日午後四時十二分

分

中村外務大臣

京城

三増録事

第五六号

京金鐵道ノ工事進リト共ニ多數ノ工支
内地ノ入込ノ屢、不穩ノ舉動ヲ演シテ
紛擾絶ヤルノ有様ナルヲ以テ會社ヨリノ請

外務省

願モアリ且ツ本官ノ於テモ之分其必要ヲ
認ルニ付此際形勢ノ為メ當分ノ間忠
清道壞 德 沃川、レンセン、三個所ニ巡
査駐留所ヲ設置シ各三名ノ出査ヲ派充ス
コトニ取計ヒタルモ右電信ヲ仰許シテ尤モ
駐在所ヲ新設及通率經費ノ創修ノ
會社ヲ員担念等

總務課長

次官

急

明治廿七年 五月 二十三日 起草 任明
同 年 月 日 發遣

通商局長

大藏省

會計課

文出

電送第三號

主任

電信課

大臣

在京城三坊任事宛

巡查駐苗所沒事件

第十九号

外務省

貴信才五六号巡查駐苗所沒事件許可

ス

1-1606

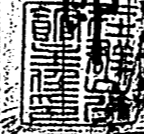
丁上坂、岩内地、所、於、兎、角、石、徳、院、傳、
一、其、部、五、世、考、派、遣、三、子、譯、三、五、久、河、方、狀、
況、ノ、詳、ヲ、悉、能、之、且、其、地、昔、也、郵、便、事、務、取、扱、
所、開、始、也、し、故、心、方、以、略、駐、在、此、處、ノ、必、要、一、層、
ヲ、感、心、ノ、存、今、叙、世、查、據、矣、ト、其、外、ノ、所、カ、ノ、為、
ノ、其、地、一、名、此、駐、在、此、處、及、其、之、前、條、ノ、事、情、
付、同、費、用、ハ、江、鏡、駐、在、所、ノ、例、ニ、依、リ、駐、在、手、者、
五、回、ノ、外、家、屋、一、新、炭、料、ト、一、年、拾、月、乃、至、給、
或、回、ノ、額、吃、時、給、茶、官、派、遣、費、ヲ、以、テ、其、辦、及、
交、尚、右、少、佐、議、ノ、上、云、急、何、方、少、回、州、之、所、也、
此、如、及、稟、法、ノ、叙、也、

明治三十七年六月二日

在群山

方館主任 横田三郎

外務大臣男爵小村喬太郎



1-1606

明治七年六月十三日

主計課

公文

公一〇二

會計課長

受第

八〇四

同録

大印及金泉駐在所洗心堂更代
 大印亦て七名及駐在所ハ福山小林五洗心堂ヲ駐留
 セシメ居リ南河所ハ近來既ニ本邦居留民増加
 洗心堂部長及名駐留セシメ必要有之ニ付
 福山洗心堂部長ヲ命ジ在代夫トシテ佐野洗心
 部長同所洗心堂ノ奉月ハ大印同所
 洗心堂又金泉駐在所洗心堂及都立者
 之停登シ奉月ハ在代夫トシテ島居洗心堂
 洗心堂ノ奉月ハ金泉同所洗心堂
 洗心堂ノ奉月ハ在代夫トシテ
 明治七年六月一日

左巻山

在朝鮮國公使館

領事有吉明



外務大臣閣下村善太郎殿

明治二十七年七月二日起草

通商局
事務課長
事務課長
事務課長

次官

廣安

トナリ
横田

駐在通商局事務課長

不
同
答
件

外務省

駐在通商局事務課長

駐在通商局事務課長

駐在通商局事務課長

駐在通商局事務課長

駐在通商局事務課長

1-1606

文書課長

明治七年七月廿一日 授受

81

明治七年 七月 八日 起草
同 年 八月 十二日 發遣

會計課長

人事課長

主任

通商局長

次官

小村 大 臣

在 駐 山
横田 公 使 主 任 兼

駐 在 山 東 省 濟 南 府 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

總 務 課 長 兼 回 答

外 務 省

韓 國 江 鏡 浦 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所 駐 在 所

1-1606

大臣 
 次官 

電受第一三五六號 明治三十年七月九日午五時五分 發

小村外務大臣 拜 荻原代任後
 第五八二号

東京金澤道線路取締ノ爲メ巡査
 捕員ノ件ニ関シ關係領事ノ意見ヲ
 徴シテ金山領事ノ管内ニ新設五

外務省

箇所各一名管内二箇所、既設駐在
 所ニ各一名捕員都合七名ニ付捕員
 ノ管内ニ三箇所各二名都合六名
 合計十三名ニ定メテ必キ九月五日申出テ
 タル旨右所任命上前記ノ旨敷ク應
 ジテ當該領事館ニ赴任セシメテ

1-1606

大書課長

明治廿七年七月十日 第一號

82



明治廿七年 七月十日 日起草
同 年 八月十二日 發遣

會計課長

主任

次官 兼

人事課長

大才

通商局長



要事由

第 255 號

小村 大 臣

在 韓 國
江 鏡 浦 駐 在 所 出 張 公 使 館

江 鏡 浦 駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

出

外 務 省

韓 國 江 鏡 浦 駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

駐 在 所 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館 出 張 公 使 館

1-1606

三ノ浦申お申の系全終迄線路より互修ト
 三ノ浦地より野車為、別途費より修る所
 時給遣る中出若十五名、内より江鏡浦
 御在せし、修業の地、其物、以て修業山を修付
 出港より中ノ浦迄、有る一日、全公事
 州舟修所、野車せし、中ノ浦、お方と
 別、修業の地、修業の地、修業の地、修業の地
 中ノ浦、中ノ浦、中ノ浦、中ノ浦

外務省

1-1606

Vertical text on the right margin, possibly a date or reference number.

大臣

Handwritten signature of the Minister.

電信課長

Handwritten signature of the Telegraph Office Chief.

總務長官

Handwritten signature of the General Affairs Officer.

主管

Handwritten signature of the Supervisor.

電受第三九七 號 明治二十七年七月廿五日 午後五時三分 發

小村外務大臣 青島 公使

Vertical text at the top center, possibly a date or reference number.

Main body of handwritten text in vertical columns, starting with '外務省' (Ministry of Foreign Affairs).

外務省 (Ministry of Foreign Affairs)

Vertical text on the left margin, possibly a date or reference number.

Main body of handwritten text in vertical columns, continuing the message.

1-1606

大臣 山

電信課長

次官 杉

主管

電受第三八三號 明治廿七年七月十五日 午時四分 發

小村外務大臣

駐米公使

中五九三編

東京薩摩道一河内ニテ日本工夫、違法

行為止マズ、執申、殺人罪ヲ犯シ

シ、若、轉件、アリテ、陸、必、外部、照

外務省

房、頼、り、り、中、及、ハ、其、時、當、後、効、力、ニ、及

滿、ラ、亦、下、ニ、處、モ、好、レ、ル、態、ヲ、演、出、シ、我、ニ

不、利益、ヲ、斷、根、シ、當、テ、中、五、九、三、編

巡、査、培、派、件、ヲ、急、決、行、セ、シ、ム、ル、

外、部、ハ、我、意、ヲ、及、培、派、ス、ル、旨、直

告、ス、直、ニ、シ、テ、

世宗本紀

四月二十七日午六時上、多産を致す海路世宗、康
らる。世宗、海路、直矢、高平、と、右の地、土、是、高、故
事、故、世、攝、は、城、は、海、思、情、道、水、同、部、と、海、路、
世、視、皇、と、之、概、況、也、と、也、

一 海路工事、状況

一、海路工事、海路、工事、は、多、産、を、致、す、海、路、
と、高、平、と、右、の、地、土、是、高、故、事、故、世、攝、は、城、
は、海、思、情、道、水、同、部、と、海、路、

海路、工事、は、多、産、を、致、す、海、路、
と、高、平、と、右、の、地、土、是、高、故、事、故、世、攝、は、城、
は、海、思、情、道、水、同、部、と、海、路、

海路、工事、は、多、産、を、致、す、海、路、
と、高、平、と、右、の、地、土、是、高、故、事、故、世、攝、は、城、
は、海、思、情、道、水、同、部、と、海、路、

海路、工事、は、多、産、を、致、す、海、路、
と、高、平、と、右、の、地、土、是、高、故、事、故、世、攝、は、城、
は、海、思、情、道、水、同、部、と、海、路、

海路、工事、は、多、産、を、致、す、海、路、
と、高、平、と、右、の、地、土、是、高、故、事、故、世、攝、は、城、
は、海、思、情、道、水、同、部、と、海、路、

海路、工事、は、多、産、を、致、す、海、路、
と、高、平、と、右、の、地、土、是、高、故、事、故、世、攝、は、城、
は、海、思、情、道、水、同、部、と、海、路、

二、三ヶ所、架橋工事未だ完成せず、是れより、
 成、場所、限、も、係、例、上、沿、て、後、跡、多、後、テ、軌
 道、本、後、多、し、全、弄、進、目、下、一、日、間、花、建、の、業、列
 車、之、性、質、し、う、多、量、車、鉄、道、用、材、之、運、搬、し、て
 了、而、し、り、者、官、一、架、橋、工、事、ハ、山、台、他、者、岐、路、
 清、水、多、海、し、も、九、多、回、と、進、歩、多、多、者、知、り、し
 工、事、之、多、中、力、増、進、し、人、員、早、日、終、了、し、り、
 也、御、全、心、充、て、進、め、る、事、也、
 各、務、局、之、多、路、段、与、約、之、事、一、日、下、軌、道、本
 路、段、中、之、材、種、運、搬、お、も、全、心、多、多、者、知、り、し、
 了、事、務、局、之、多、本、路、段、之、運、搬、し、り、一、日、中、
 本、路、段、之、多、人、員、早、日、終、了、し、り、
 卜、田、心、也、
 各、務、局、之、多、路、段、之、多、事、之、概、し、う、の、多、回、の、諸、工、事、也、
 院、以、知、事、左、田、占、日、物、上、室、等、ハ、事、之、工、事、也、
 会、社、之、多、田、板、葉、楠、之、産、名、浦、新、産、産、
 村、等、之、多、社、生、産、所、之、多、産、中、来、し、く、工、事、之、院
 指、し、り、平、坦、地、之、多、所、ハ、職、工、事、務、局、之、多、院、之、
 運、搬、一、連、續、の、お、も、諸、多、多、多、多、多、多、多、多、
 一、日、中、之、多、多、多、多、多、多、多、多、多、多、多、多、
 一、日、中、之、多、多、多、多、多、多、多、多、多、多、多、多、

1-1606

新田組、日韓軍組、山上組、
杉井組、

左衛門三右衛門

藤島組、志岐組、
吉田組

盛陽社、海川組、
時任組

菅原組、

以上諸員人々多請員人自身現懐く成んば
皆心腹人々此中主件しより主事少精進
督せし、四重う者ナリ

工事、対立、韓民感情

韓民、鉄道布設に對し、如何に感情多有り
然るに、今俄かに在るを以て、韓民は、
民ホノ情ノ深キ事ナリ、鉄道、主事上、
利害、し、條、本、事、通、一、韓民、
此、事、ノ、厚、利、ノ、感、受、一、十、五、十、
止、多、厚、利、ノ、感、受、一、十、五、十、
テ、故、際、ノ、言、フ、事、ナ、カ、ル、事、
ノ、事、ノ、直、接、ノ、利、害、ノ、係、
因、地、方、の、利、害、ノ、感、受、一、十、五、十、
接、接、せ、し、る、事、ナ、リ、

乃身ヲ遊幸シ甚情ヲ略シ此ノ若シ也
ヤリ加ルニ給然ニ事ノ始シオメノ如ク
事ノ果ヲ得シ數相類ヲ給印ヲ事ニ至
悉ク其底ニテ生活ニ臨シト因程ヲ極ム
歎中邦人者凡シ此ノ如クシテ心ヲ事ニ
長ク取リ内心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取
ニ林ノ外ニ事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心
ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取
一乃事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取

水田直ノ官ノ事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心
乃事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取

右田ノ事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取
乃事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取

舞臺及所ノ事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心
乃事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取

右其ノ事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取
乃事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取

乃事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取
乃事ニ取テ心ヲ事ニ取テ心ヲ事ニ取

1-1606

支那の支那

板条 二十号

江景駐在巡查部長各、駐在所、新設、
に復申之付

第 7412 号

本月上月付送分四三貴信、以て駐在所巡查部長
 各、駐在所、新設、
 設、
 必要、
 下、
 駐在所、
 州、
 敷、
 不便、
 者、
 收、
 也、
 し、
 里、
 己、
 失、
 う、
 此、
 ノ、
 在、
 附、
 也、

支那の支那
 支那の支那

明治廿七年 八月 九日 起草
同日 發遣

人事課長 小村 大任

次官

電信課長

電送第七五號 明治廿七年八月九日

主任

小村 大任

右三場 飲了 一 八 三 拾 電 七 日

東京 鉄道 線 沿 取 係 為 小 村 大 任 派 遣

外務省 駐在 中 國 領 事 館 中 國 領 事 館 駐 在 中 國 領 事 館 中 國 領 事 館

電 七 日

16

1-1606

大臣

電信課長

次官

主管

電受第一五〇三號

明治廿七年八月十一日 午前十一時五分

小村外務大臣

外七十一号

東京金銀道銀紙取締、多摩車

水産博覧会、天安、ラウ子イ、シ、

徳、ソウジャ、新川ノ七佃所

外務省

駐留所ヲ置キ平洋ニ各其地

ニ各々調査ノ派遣シ運送所々取

扱、フカシ、新難津、イ、同、三

佃所ノ駐留所ノ新設シ各々各

査、配、置、法、定、同、時、各、駐

留所、聯、絡、持、必、要、上、司、

徳、駐留所、シ、メ、テ、ニ、井、川、駐、留

所、セ、キ、ト、ヤ、移、ス、ト、ヤ、一、

可、一、

1-1606

大臣

電信課長

Handwritten signature

次官

主管

Handwritten signature

電受第一五二二號 明治三十年八月十一日 午後四時五十分 發

村島格大臣 謹山有吉願事

才四十六號

共畫四十八號、件三浪濤一石有
峴一石土邱四石倭館一石扶桑一

外務省

石金泉二石黃洞一石秋風嶺一
石都左十二石他三石倉社
二石宿舎都后付十石草清
道永同一石家浜壺一長

1-1606

出葉月日	駐在所地名	人	名
八月十三日	大印	豊彦	川上克太郎
左	左	左	豊田大次郎
八月十五日	左	左	沈若木下郎
八月十三日	扶桑	左	青柳房夫
左	金泉	左	鎌田千代夫
左	秋風山	左	岡野團次郎

在朝鮮國釜山日本領事館

1-1606

會計課長

人事課長

公第16號

通商局長

文第13047號

巡查駐在所開示件

曩々全州公州ノ兩地ニ巡查駐在所新設并
 江原駐在所一各増員方等ノ義及當該
 候度客月三十日付送才五七號貴信ノ以テ
 承知可ノ趣致敬承候就々全州公州ノ兩地
 ニ本月十六日付駐在所ノ新設致々全州三古
 川巡查ノ公州ニ北浦巡查ノ常駐為致猶又
 江原駐在所ニ經費費ノ都合ニ有之候并末
 十月一日付一各増員致々永石津坂ノ兩巡
 査ノ常駐可為致候間前段新設兩駐在所
 所經費費正急水回送相成候様致度
 此段當報濟及内信求候致具
 明治三十七年九月十七日
 在郡山
 分館主任横田三郎

外務大臣男爵小村嘉大郎殿
 進子前記兩駐在所新設ノ件ニ在郡山公
 使館ニ及報告書送候也



1-1606

次官

急

明治廿七年十月十九日起草
同日發遣

通商局長

會

印

主任

電送第百七號

電信案

Handwritten signature

左倉山者老任事宛 小村大臣

第百五十八号

鐵道法改正案

外務省

公弁一六号出張、件許可ス

1-1606

寫

電受第三四ノ報

明治廿九年四月廿五日付二十五分發

小村外務大臣 倉山右幸郎奉

第一報

管内の強盜者ありて之を官立鐵道會社ヨ
リ強奪する事有レシメテ之を對シテ本社ハ
月限、右免除カシテ之を居ルニ付由際急
ニ輕在所ヲ設置スル必要アリ奉第一ノ
報事申、付レシ事謹言ヲ清ク

手書、通事編纂部ニ在リ

外務省

1-1606

電送第三三〇號

昭和六年四月廿六日

在金山古蹟事務所 小村大五

才三號

敬請察及留置、件

電信案

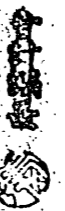
貴電ハ、号ニ関シ會知ハ、号ニ當リ
付ニ對シテ、五月十七日、金山古蹟事務所
信ヲ發シ、右由、五月廿一日、金山古蹟事務所
外務省

系書ハ、通事編纂部ニ在リ

高木 龍子 宛
何より 御調へ

明治廿八年 四月 四 日 起草
同 年 月 日 發遣

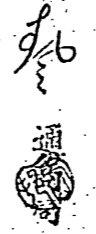
電信課長



主任

電信第三三三號
明治廿八年四月四日

次官



久藤

在印付

小島 大五

三増 頌平 宛

第七号

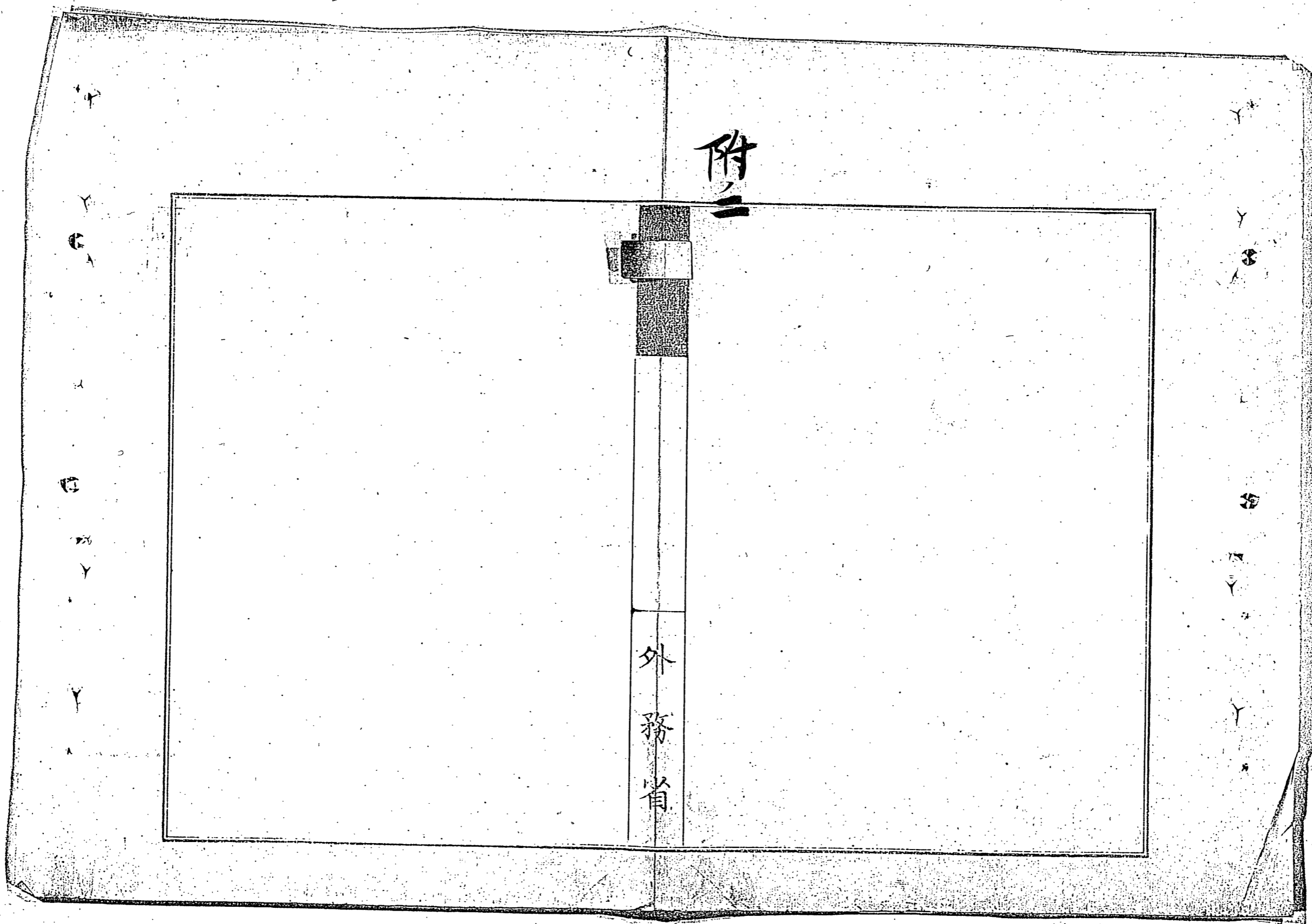
電信 梅

外務省

眞電一三十一號、轉、東京、新、細、以、信

ニ、ラ、了、台、了、

1-1606



附
二

外
務
省

1-1606